

東濃地科学センターの状況

1. 瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事

- 主立坑の掘削作業 (5/27 8:00 現在 493.5m)
- 換気立坑の掘削作業 (5/27 8:00 現在 500.2m)
- 深度 500m の水平坑道の掘削作業 (4/21～)
- 瑞浪超深地層研究所からの排水
 - ・排水処理設備：放流を実施中

2. 調査研究

(1) 超深地層研究所計画

[瑞浪超深地層研究所]

- ・深度 200m のボーリング横坑（主立坑、換気立坑）及び深度 300m のボーリング横坑（換気立坑）における鉛直ボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（07MI08, 09・09MI17-1, 18, 19 号孔）
- ・深度 200m、深度 300m 及び深度 400m の水平坑道（予備ステージ）における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測を継続（07MI07・09MI20・10MI26 号孔）
- ・深度 300m の研究アクセス坑道における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（10MI23 号孔）
- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測を継続（MIZ-1・MSB-1～4・05ME06 号孔）
- ・主立坑、換気立坑の集水リングを用いた地下水分析を継続
- ・自然電位測定による地下水流動観測を継続（地上及び深度 300m ステージ）
- ・表層水理観測を継続（研究所用地内 1 地点及び 04ME01 号孔）
- ・アクロス技術の工学技術への応用として、弾性波/電磁波送信及び観測を継続

[正馬様用地]

- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（AN-1, 3・MIU-2～4 号孔）
- ・表層水理観測を継続（正馬様用地内 3 地点及び 97MS-01, 02・98MS-03, 04・99MS-05・AI-7, 10 号孔）

(2) 広域地下水流動研究

- ・地表からのボーリング孔を用いた地下水水圧観測を継続（DH-2, 7～9, 11～13, 15 号孔）
- ・河川流量観測を継続（日吉川下流域、柄石川流域）

(3) 地質環境の長期安定性に関する研究

- ・変動地形が明瞭でない活断層、震源断層等に係る調査技術の整備を継続
- ・内陸部の隆起・侵食速度の算出に係る調査技術の整備を継続
- ・古水理地質学的アプローチによる地質環境の変化の予測・評価手法の開発を継続

3. 瑞浪超深地層研究所環境調査

- 流量観測を継続（狭間川 4 地点）
- 水位観測を継続（研究所周辺井戸 10 地点）
- 研究坑道掘削土に関する環境管理測定を継続
- 環境保全協定に基づく排出水等の測定を継続

4. 瑞浪超深地層研究所における施設供用等

- ・東濃地震科学研究所による研究坑道内における傾斜計を用いた岩盤変位計測等を継続。また重力計による観測を調整中。
- ・産業技術総合研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道における水平ボーリング孔を用いた地下水水圧・水質観測）を継続（09MI21 号孔）
- ・電力中央研究所との共同研究（深度 300m 研究アクセス坑道におけるボーリング孔を用いた地下水水圧観測）を継続（10MI24, 25 号孔）

※下線の観測地点名について誤記がありましたので、お詫びして訂正いたします。

瑞浪超深地層研究所研究坑道掘削工事の状況
(平成 23 年 5 月 27 日現在)

立坑

立坑掘削深度	主立坑	換気立坑
	493.5m	500.2m
6月3日までの予定	494.4m	500.2m

水平坑道

深度 300m 研究アクセス坑道 掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から (ボーリング横坑)
	95.7m 計測横坑①10.0m 計測横坑③ 3.0m 計測横坑④ 3.0m	19.75m (露岩部 5m 含む)
6月3日までの予定	—	—

深度 500m 調査研究用 の水平坑道掘削進捗	主立坑側から	換気立坑側から
	—	予備ステージ 5.4m 調査研究用坑道 (仮称) 上半分 6.2m、下半分 2.0m
6月3日までの予定	—	予備ステージ 5.4m 調査研究用坑道 (仮称) 上半分 6.2m、下半分 6.2m

※アプローチ坑道 (仮称) は調査研究用坑道 (仮称) と呼称します。

その他

その他の作業	主立坑	換気立坑
	—	—
6月3日までの予定	—	—

